

とちぎで暮らそ Vol.3

栃木市 移住・定住支援情報



住みたい田舎ベストランキング(宝島社)

若者世代2年連続全国1位

子育て・シニア世代全国2位

栃木市ってどんなところ？

栃木県の最南端に位置し、東北自動車道と北関東自動車道の結節点となるため市内には「佐野藤岡」・「栃木」・「都賀」と3つのインターチェンジがあり、都内へ1時間程度で行くことが可能です。さらに東武鉄道が市内を縦断し、東京駅へ最短55分、新宿駅までの直通電車もあり、都内への通勤・通学が可能です。古くは飛鳥時代から平安時代にかけて「下野国庁」が置かれ、江戸時代には「日光例幣使街道」の宿場町として栄える一方、市内を流れる巴波川の舟運により、北関東随一の商都と呼ばれるほどの発展を遂げました。東には豊かな田園、西には「太平山」、南には「渡良瀬遊水地」、北には昔懐かしい里山風景が広がるなど自然に恵まれ、また、地震や雪の影響も少なく、大変住みやすいまちです。



県名発祥の地、歴史ある街並み

県名発祥の地である栃木市は、江戸時代より京都から日光に至る例幣使街道が通る宿場町でした。例幣使街道の一部は、現在の中心街をなす大通りや国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「嘉右衛門町（かうえもんちょう）地区」であり、黒塗りの重厚な見世蔵や白壁の土蔵群が今も残っています。また、栃木市最大の祭り「とちぎ秋まつり」は、豪華絢爛な江戸型人形山車が練り歩き、江戸時代を彷彿させる「粋」と「雅」を感じることができます。



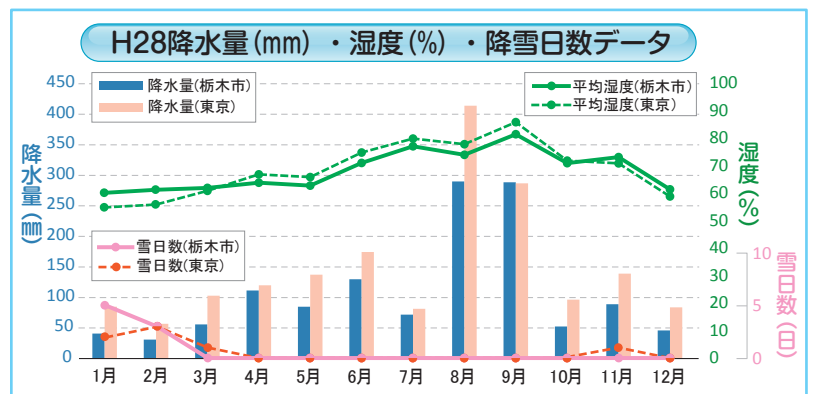
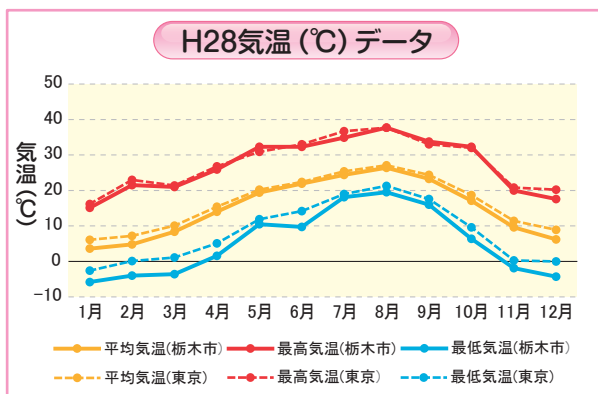


データで見る栃木市

項目	数値	県内順位	出典
人口	159,211人	3位	H27 国勢調査
面積	331.50km ²	8位	H27 国土地理院
商業	事業所数	1514所	H28 経済センサス
	商品販売額	2,842億1800万円	H28 経済センサス
工業	事業所数	404所	H29 工業統計
	製造品出荷額等	1兆922億3,124万円	H29 工業統計
農業	農家戸数	5,461戸	2015年農林業センサス

栃木市の気候について

栃木市の平均気候は東京とほとんど差がなく、雪もほとんど降りません。



出典：栃木市消防年報 平成29年度 気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp/>)

※過去の気象データ(2016年東京都東京)を編集して作成



先輩インタビュー 移住者の声 FILE.4

横谷 直巳・由紀さんご家族

横谷さんご家族は、東京都足立区から移住されてきました。東京で行われた移住セミナーに参加、移住体験施設「やどかりの家」も利用し、栃木市に移住されました。

●都内からの移住

以前は、実家の近くの足立区のアパートに住んでいました。都内ではありましたが、下町だったので、都会に近い田舎という雰囲気があり、物価も家賃も都心部より安く、住みやすい場所ではありました。両親が地方出身であったので、夏休みなど長い休みに田舎で過ごしていたこともあり、田舎暮らしに憧れていたのかもしれない。住みやすい場所ではあったのですが、このまま都会で暮らすのもなぁと感じ、地方への移住を考え始めました。

私としては、多少不便でも大自然のなかで暮らすという事もありかなと思っていたのですが、雪が積もった時の車の運転には不安があったので、栃木県であれば県南地域かなと考えていました。そんな時都内で行われた移住セミナーに参加して、栃木市について興味をもったことが移住への第1歩になりましたね。

●ちょうど良い栃木市

実は、私は栃木県日光市で働いていたことがありまして、栃木県にはちょっとした関わりがありました。休みの日には、栃木市をドライブしたこともあります。その時に感じたのが、景色が良いこと。それと商業施設もあって、田舎でもなく、住んでみたら住みやすいだろうなと思っていました。あとは、お互いの実家にも行きやすい東武線であったことが大きな要因ではありますね。

●まずは仕事探し

まず栃木市に移住するのに、仕事と住むところを同じぐらいの割合で探していました。都内では飲食業に勤めていたので、飲食業というジャンルで探し始め、何度か面接に栃木市を訪れ、老舗飲食店で働くことが決まりました。住むところについては、何力所か候補があったのですが、職場から近い今の場所に決めることができました。

●ほどよい自然を感じて

実際に住んでみると、全く不便さを感じることはなく、それより自然を身近に感じたり、夏は涼しかったり、冬は雪が積もらなかったりと想像していたよりもいいことばかりというのが正直な感想です。びっくりしたのは、自転車を使っている人が少ないこと。ほとんどの人が車で移動していて、自転車に乗ることが恥ずかしくなっていました。今は夜しか乗らなくなっちゃいました（笑）





●のびのび子育て

子どもにとっては良い環境になっています。以前通っていた保育園のお友だちと別れるのは悲しかったのですが、現在通っている保育園は人数が多く、たくさんのお友だちができ、都内の保育園とは違い園庭が広いので楽しく過ごすことができます。近所のお友だちとも一緒にお祭りに行ったり、公園で遊んだりしていて、都内にいた時よりものびのび育っていると思います。子育てについては不安は全くないですね。

都内で子育てした方が、いろいろな施設や情報が多いからいいという人いますが、私たちは自然のなかでのびのびと育ててほしいと思っています。自然といえば、シラサギやカモが身近にすることがすごいですね。東京では見られない鳥もたくさんいて自然の豊かさを感じています。

●移住する実感

移住体験施設は、栃木市に移住をする方にはおすすめです。私たちが、「やどかりの家」を利用した時には、住む場所も決まっていました。移住前の移住体験として、ごみの出し方で市指定のゴミ袋があることなど、実際に住んでみると気づかないことを知ることができました。また、職員の方や地域の方とお話することで、こちらの人の雰囲気や栃木市の良い所を知ることができたと思っています。

実際に来て、見てみる、体験してみることは大切なことだと思います。遠い方なんかは、移住体験施設を活用して、市内のいろんなところに行ってみたり、家を決める手続きなどにも利用できるかなと思います。私なんかは、何度も栃木市に来ることで、これからここで暮らしていくんだなと移住する実感が湧いてきました。

横谷さんのイチ押し栃木市

横谷さんご家族イチ押しの場所は、太平山です。桜や紅葉の名所であり、山頂に近い謙信平から眺める景色は、横谷さんご家族のお気に入りのスポット。謙信平からは、関東平野が一望でき、点在する丘陵を海に浮かぶ小島に見立て、陸の松島とも呼ばれる絶好のビュースポットです。また、天気の良い時には、東京スカイツリーや新宿高層ビル群、富士山も見ることができます。太平山三大名物の「お団子」「焼き鳥」「卵焼き」を食べながら、太平山から見える景色を楽しんで下さい。



太平山 謙信平





先輩インタビュー 移住者の声 FILE.5

橋本 大道・麻有さんご家族

橋本さんご家族は、川崎市から麻有さんのご実家に近い物件を購入し、栃木市に移住されてきました。栃木市空き家バンクも活用しながら、現在の理想の家を購入されました。

故郷を離れて

結婚してからお互いの職場に近い、川崎市に住みました。バスと電車を使って1時間ぐらいの通勤だったことや、東京、横浜にも出やすかったことなど不便さはなく暮らせていたと思います。川崎市では、家族が増えるごとに引越しをしていたぐらいでとてもいい街でした。暮らすのに不便さを感じることはなかったのですが、ただひとつ大変だったのが、坂が多いこと。電動自転車を購入しましたが、それでも急な坂があると、立ちこぎをしなくてはならないほどでした。大雪の時は大変でした。子どもたちを保育園に連れて行くのに、上の子はベビーカーに乗せ、下の子は抱っこで歩いたのですが、怖いのがなんの。急な坂だったので慎重に一步步おそろおそろいったのですが、近所のおじさんが見兼ねて手伝ってくれたぐらいです。その点、栃木市は平地なのでうれしいですね。

子育て環境を考えて

2人目が生まれた時から、子育ての環境を考えるようになりました。保育士をしている職業柄、いろいろなところに目がいって、子どもの遊ぶ場所が少なかったり、遊んでいて危ないと思う場所も多かったり、子育てを考えると不安な場所が多かったです。また、私たち夫婦がお互い自然を身近に感じながら育ったので、子どもたちにも、自然豊かなところでのびのびと成長してくれたらなと、お互いの実家近くで移住を考えました。

見つけた、私たちの新しい家

2人目が生まれ、実家の栃木市に帰ってきたとき、ふと目についたチラシに、実家から近い物件が載っていました。ちょっと気になったので問い合わせしてみたのですが、ひと足遅く、先客がいて購入まではいきませんでした。そんなことがあったので、気に入った物件があったら、すぐに見に行こうと決めていました。栃木市の「空き家バンク」も良く見るようにもなりました。実家の近くで考えていたので、今の家が出た時には、すぐに物件をチェックしに行きました。夫は、川崎市にいたので、テレビ電話を使って外観や家の中を見てもらい、すぐに購入する手続きに入ることができました。外観も気に入ったのですが、間取りやひとつひとつの部屋も素敵で、ここに決めたって感じですね。自然が好きな夫は、庭で子どもたちと一緒に遊べるのが決め手になったみたいです。





●家族と過ごす時間、幸せの時間

お互いこっちで仕事を探しました。通勤時間が短くなったことで、家族と過ごす時間が増えました。妻は、仕事に復帰したこともあり、仕事と家事、子育てと大忙しです。自分が、家に早く帰り、役割を分担することで、家族との時間が作りたいですね。実家が近くにあることも大きいですね。川崎市では、いざという時に助けてくれる人が近くにいませんでしたから。

●自然から発見できるもの

私が栃木市で過ごしてきたので、同じ経験があったり、自然の中からいろんなことを発見したり、自分で何かを見つける力をつけてほしいですね。子どもたちが成長して必要とあれば、都会に出ていくのもいいかなと思っています。たぶん、こちらで育つと都会の生活に慣れることもあるだろうから、その時は子どもの背中を押してあげたいと思っています。

●自分で手掛けた自慢の庭

庭を持つことは、夢でしたね。家庭菜園など子どもたちと一緒に育てることは楽しくもあり、子どもたちの成長に大いに役に立つと思っています。家庭菜園も2日ばかりで穴を掘って、腐葉土や土を入れて作りました。芝のある庭も理想だったので、自分で芝の植え替えもしました。芝生は手入れも大変ですが、芝生で子どもたちと遊べるように手入れに力を入れていきたいですね。あと、ウッドデッキも手作りです。自分で材料を購入して、一から作りました。自然いっぱいの庭にしていきたいですね。



橋本さんのイチ押し栃木市

橋本さんご家族のイチ押しの場所は、「渡良瀬遊水地」です。麻有さんが子どものときによく遊び行った場所でもあり、子どもたちに自然に触れさせる場所としてお気に入りの場所です。

今春オープンした「渡良瀬遊水地ハートランド城」では、ミニよしず作りやヨシを原料とした紙すき体験、遊水地を一望できる展望室など、渡良瀬遊水地を楽しむことができる施設が充実していますので、ぜひ足を運んでみてください。



ラムサール条約登録湿地
渡良瀬遊水地





先輩インタビュー 移住者の声 FILE.6

三浦 友裕・はるかさんご家族

三浦さんご家族は、埼玉県久喜市から移住されました。栃木市ではアパートに住んで、市内を散策しながら、現在の家を購入。築34年の古民家に猫のこたつちゃんと暮らしています。

住みたいと思う雰囲気のある街

私は、群馬県出身で、妻は親が転勤族だったので全国を転々としていました。私たちにとって、栃木市は特に縁はありませんでしたが、嘉右衛門町を二人で歩いた時に、この雰囲気、こんなに私たちにフィットする場所があるのかなって思ったぐらいです。この街に住みたいとビビっと感じた私たちは、帰りの車で栃木市に住むことを決めましたね。妻は、車の運転が苦手という事もあって、歩いて買い物なり、散歩なり楽しく日常生活を送れるところを探していたので、実際に住んでみて栃木市は私たちの生活にぴたっとはまる場所だったと実感しています。

日常の幸せ度UP

夫は佐野市に勤めていて、私は東京だったので、その中間地点として、埼玉県久喜市のアパートに住んでいました。東京に勤めていた時は、片道2時間の通勤で、仕事から帰ってきて料理をしたり、朝お弁当を作ったりして、日常生活にゆとりがなく過ごしてきました。仕事も大好きでやりがいもあったので、続けていこうと思っていたのですが、自分が情熱を注げる仕事をしてみようと思い、勤めていた会社を辞めて、小さい頃からやってきたカメラの仕事をすることに決めました。今の仕事をする前は、平日は帰って寝るだけでしたが、今は夫とも一緒に過ごす時間も増えて、日常生活の幸せ度が格段とあがりました。私も仕事で都内に行くことがあるのですが、栃木駅に着くとホッとする自分がいます。栃木市はアットホーム感があるんですね。

最高の家との出会い

嘉右衛門町にハマった私たちが栃木市に住むのは揺るぎなかったもので、最初は駅近くのアパートに住みました。初めての田舎暮らしだったので、雰囲気はどうだろうとか、地域との関わり合いはどうだろうかと不安があったので、住みながらいろんな人に話を聞いて、不安を解消する事ができました。栃木市は、いわゆる田舎をイメージさせる排他的な地域性はなく、いい距離間で住むことができる私たち世代にはベストな場所だと思います。家探しでは、散歩がてらいろいろな場所を見て回りました。また、不動産屋さんからは、栃木市空き家バンクは毎日チェックしたほうがいいよとアドバイスをもらい、よくホームページをチェックしていましたね。3、4軒は空き家バンクの物件も見に行きました。中古住宅を探すのにすごく参考になったと思います。今の家は、外観でキュンとなり、そして中を見た時に一瞬で心を決めました。私ひとりで見に行っただのですが、夫の承諾を得ずに仮契約までしてしまいました。





●私たちの夢が次々かなう移住生活

1軒家を購入で次々と私たちのやりたいことができています。その一つが猫を飼うこと。ずっと飼いたかったんで、この家に住んでからこたつ（愛猫）を飼いはじめました。こたつには毎日癒やされています。アパートではペット可の物件を探すのにも大変なので、家を購入するきっかけにもなりました。

あと、無農薬野菜が普通に食卓に並んでいること、ほんと贅沢だなあと。東京に住んでいた時は、えらく高くて、それがこっちでは、当たり前のようにあって、それがまた驚くほどきれいな野菜。野菜に対して初めて感動したぐらいです。家庭菜園も試みていますが、いまのところトマトが成功しています。ブルーベリーも植えているので、実がなるのが楽しみです。庭をもったのが、人生で初だったので家庭菜園も楽しんでいきたいですね。

●市の支援を活用して幸せUP

「あったか住まいるバンク」や「移住体験施設」については、以前から知っていました。補助金を活用して、この家に合うテーブルを購入することができました。新しい家を購入するにあたって、シンボルになるものを買おうと決めていたので、栃木市ありがとうございましたと感謝しています。

私たちは、今の家がすごく気に入っています。最高の家と出会うために、街の雰囲気とかスーパーがどこにあるとか、すぐに把握できるものではないので、しっかり腰を据えて見た方がいいですね。移住体験施設は、普段の栃木市を知るのにもってこいです。むしろ、普通に古民家の「やどかりの家」には泊まってみたいなあと思っているぐらいです。これから移住を考えている人は、ぜひ活用されるといいと思います。

三浦さんのイチ押し栃木市

三浦さんご家族のイチ押しの場所は、栃木市に移住するきっかけとなった嘉右衛門町です。嘉右衛門町は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、歴史的町並みや景観が楽しめます。生活の中に歴史が融合している雰囲気、自然にレトロな感じが生活に根付いた歴史の重みが本物を醸し出しているとかかなりのお気に入り。またはるかさんは、プライベートでも写真を撮っており、右の写真は、お気に入りの場所です。三浦さん夫婦の休日の散歩コースにもなってます。



国の重要伝統的建造物群保存地区指定

か う え もんちょう

嘉右衛門町



試してみませんか？

栃木市の移住体験施設

栃木市では、移住後の具体的なイメージを持ってもらうため移住体験のできる施設を2つご用意しています。両施設とも蔵の街の魅力を余すことなく堪能でき、栃木市の歴史や文化、そして生活を肌で味わう事が出来ます。



栃木市
マスコットキャラクター
とち介

蔵の街やどかりの家

栃木市の中心部にある県庁堀沿いの1角に佇んでいるのが「蔵の街やどかりの家」です。昭和25年に建てられた渋みのある住宅は、昭和の趣を残した味わいのある住宅です。11年間も空き家となっていましたが、畳とお風呂をリフォームした以外、ほぼ元のまま使用しています。

まちなかにあり、蔵の街からも近いので、歩いて散策するのも楽しみ方の一つです。



蔵の街やどかりの家

場 所 栃木県栃木市入舟町14-17

間 取 り 3LDK ※駐車場(1台)

設備・備品 バス、トイレ、キッチン、テレビ、エアコン、ファンヒーター、冷蔵庫、炊飯器、食器、オープンレンジ、調理器具、掃除機、洗濯機、ドライヤー、Wi-Fi、自転車

＊移住体験施設ご利用案内＊

期 間 1泊～1か月以内

利 用 料 1泊 2,000円・1か月 30,000円（光熱水費込）

※食費や交通費、生活に必要な消耗品は自己負担となります。

利用方法 利用開始希望日の1週間前までに、電話、FAX、インターネットから申込み。

詳しくはコチラ! 「栃木市 移住体験」
tochigi-akiya.jp/trial/



IJUテラス 蔵人館



江戸時代に建てられた見世蔵と土蔵を活用した、全国的にも珍しい、**カフェ併設の移住体験宿泊施設**です。市内中心部の蔵の街大通りに面し、山車会館、蔵の街美術館、蔵の街観光館など、多くの観光施設に囲まれていることから、蔵の街の今をあますことなく体験できる施設となっています。宿泊施設は蔵の外観を活かしながら、内部は現代的でくつろげる居住空間を創出しています。



IJUテラス 日光珈琲蔵ノ街

併設するカフェは、県内に4店舗を構える「日光珈琲」が市内に初出店。市内外から訪れるたくさんの方々との交流もお楽しみいただけます。



IJUテラス 蔵人館

場 所 栃木県栃木市万町4-1

間 取 り 1LDK

設備・備品 バス、トイレ、キッチン、テレビ、エアコン、冷蔵庫、炊飯器、調理器具、オープンレンジ、食器、掃除機、洗濯機、ドライヤー、Wi-Fi

● 移住体験施設利用者の皆様 ●



- ・歴史を感じる街の景観や川のはしらは想像以上でした。
- ・古き良き歴史とそこに住んでいる人たちの生活がうまく共存していて、とても素敵な街だと感じました。
- ・築70年の古民家にも関わらず、とても清潔感があり、生活必需品にも困らず、掃除も行き届いていました。
- ・静かな佇まいで、庭の木々など季節を感じられました。
- ・県庁堀など近くに子どもが楽しめるポイントがあり、毎日楽しく過ごせることができました。
- ・お風呂などの水回りがきれいで使いやすく、暮らしやすかったです。

- ・天井の梁など所々に蔵を感じることができ、蔵に泊まれる素敵で贅沢な体験になりました。
- ・京都のような雰囲気、1日中街歩きをしても飽きない街並みでした。
- ・杉の香りがこれから訪れる人に好印象になると思います。
- ・蔵の見た目も機能的な部分も味わえ、本当に住みたくなる施設でした。
- ・何不自由なく過ごせる素敵な空間でした。

～栃木市で暮らしたくなったなら～ 移住までの流れを簡単にご案内

STEP 1

まず家族と相談しましょう

●どんな目的で、どんな生活をしたいのか、家族でじっくり考えましょう。

先輩移住者の体験談も参考にしてみてください。

『移住者の声インタビュー P3～P8』



STEP 2

地域の情報を集めましょう

●住まいや、仕事、医療機関、教育環境など、暮らしに必要な情報を集めましょう。

栃木市では毎年、手軽に参加できる移住促進日帰りツアーを開催しています。「百聞は一見にしかず」まずは観光気分で栃木市を体感してみませんか。

STEP 3

移住体験をしてみましょう

●栃木市の暮らしを体験してもらうため移住体験施設「やどかりの家」「蔵人館」を用意しました。

いつでも、何度でもご利用が可能です。
『蔵の街やどかりの家 IJU テラス蔵人館 P9～P10』
『移住体験施設利用者の皆様 P11』



STEP 4

仕事・住まいを探しましょう

●栃木市では就職や住居探しのサポートを行っています。

栃木市の空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」は全国成約実績 No.1!
専用 HP(<http://www.tochigi-akiya.jp/>) で空き家情報を毎日発信中です。



STEP 5

いざ移住！新生活を楽しもう！

●引越しが完了したら、いよいよ新生活のスタートです。
住居周辺の情報収集を兼ねて、ご近所に挨拶に行ってみては？

新たな発見を重ねながら、「住んでよかった！」と言える生活を送りましょう。

おすすめ補助制度

Check
1

「IJU（移住）補助金」

【対象者】市街化区域に家を新築・購入（H28年4月～H31年3月の契約）した転入者

【補助金額】 新築住宅:30万円 中古住宅:20万円

【若年世帯加算】所有者・配偶者どちらかが40歳未満:10万円（50歳未満:5万円）

【子ども加算】 18歳未満の子ども1人につき10万円

【勤労者加算】 市内勤務:10万円 市外勤務:5万円

《モデルケース:新築住宅、35歳、子ども2人、市内勤務の場合》

補助金合計 **70万円** (30万円+10万円+10万円×2+10万円)

「多世代家族住宅新築等補助金」

【対象者】市街化調整区域に3世代以上が同居または近居するための家を
新築・購入・増改築（H28年4月～H31年3月の契約）した方

【補助金額】 **20万円**

Check
2

「【フラット35】 子育て支援型・地域活性化型」

【対象者】Check1の「IJU（移住）補助金」に該当する方

【内 容】長期固定金利住宅ローン【フラット35】を利用して住居を取得すると、
当初5年間、借入金利が0.25%引下げ！

さらに【フラット35】Sとの併用で、当初5年間、0.50%も引下げとなります！

借入額が3,000万円の場合、約 **110万円**もお得に！

※借入金利年1.35%、借入期間35年、元利均等返済、ボーナス返済なし、【フラット35】S（金利Aプラン）と【フラット35】子育て支援型・地域活性化型を併用（当初5年間、年0.50%引下げ）した場合の試算

※【フラット35】は住宅金融支援機構の住宅ローン商品です。

Check
3

「通勤者特急券購入費補助金『^{らくちん}楽賃』」

都内まで電車でおよそ1時間の栃木市なら、都内通勤が十分可能!

『楽賃』を使えば特急列車でらくらく都内通勤も可能です!

【対象者】 東武鉄道を利用して都内へ通勤する方

【補助金額】 特急券購入費用に対し、1月最大 **1万円**

(特急利用に対する手当が支給されている場合、その額を除きます。)

「通学者定期券等購入費補助金『^{らくちん}通学版楽賃』」

市内から通学している、若者世代を強力バックアップ!

【対象者】 東武鉄道を利用し東京圏に通学する大学生・短大生・専修学校生

【補助金額】 1年度につき最大 **2万円**

Check
4

「結婚新生活支援補助金」

新たな生活の始まりには何かとお金がかかるもの。栃木市は、幸せいっぱいな二人の新生活のスタートをお手伝いします!

【対象者】 次の3つの条件を満たす夫婦

平成30年1月1日～平成31年3月31日に婚姻したこと

平成29年の2人の合計所得が340万円未満であること

婚姻時の年齢が夫婦合わせて70歳未満であること

【補助金額】 住宅の購入・賃借費用及び引越費用の合計額に対し、最大 **30万円**

Check
5

「空き家バンクリフォーム補助金」

空き家バンク制度を利用して、おトクな古民家を理想の住まいに復活させてみてはいかがですか?栃木市では、空き家を有効活用してくださる方をお待ちしています!

【対象者】 「あったか住まいるバンク」登録物件を購入・賃借し、リフォーム工事や家財処分を行う方

【補助金額】 リフォーム工事費用の2分の1について最大 **50万円**

(工事費用が20万円未満は対象外)

家財処分費用について最大 **10万円**

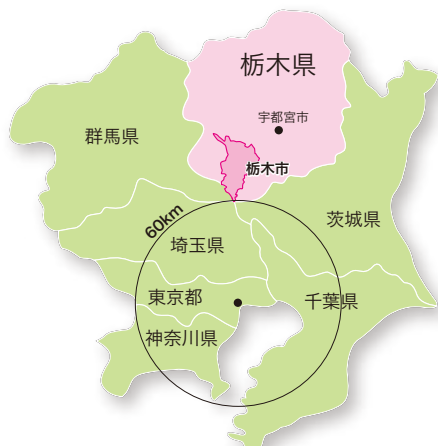
(処分費用が5万円未満は対象外)

《栃木市の空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」は全国成約数No.1! まだまだ使える市内のおトクな空き家情報を、専用HP (<http://www.tochigi-akiya.jp/>) にて毎日発信中です!》

問合せ先 栃木市住宅課定住促進係 ☎0282-21-2543 まで!

交通のご案内

アクセス

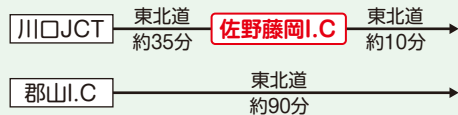


栃木市



車をご利用の方

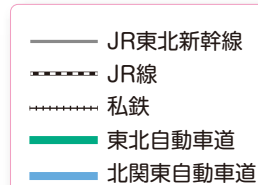
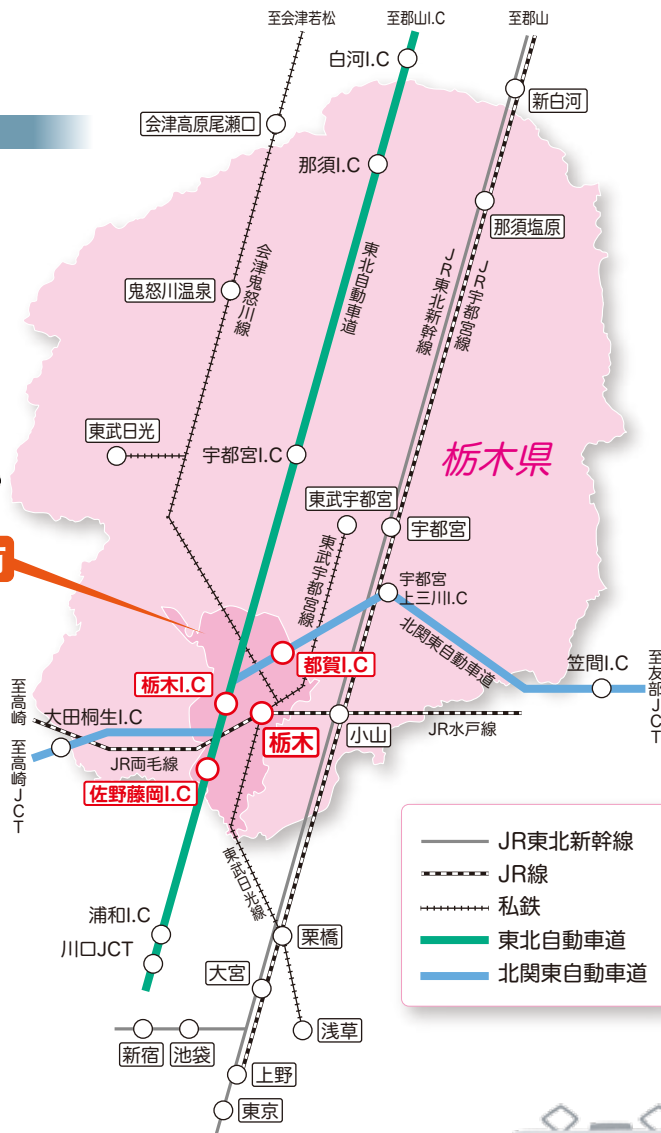
●東北自動車道 (川口JCTから栃木I.Cまで約45分)



●北関東自動車道 (友部JCTから栃木I.Cまで約40分)

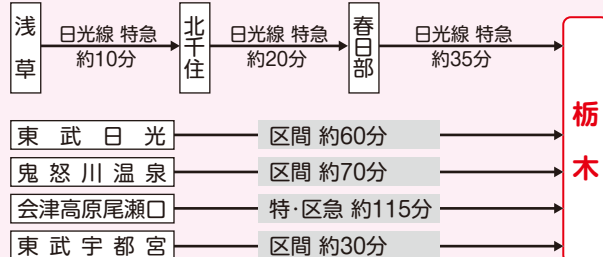


栃木I.C

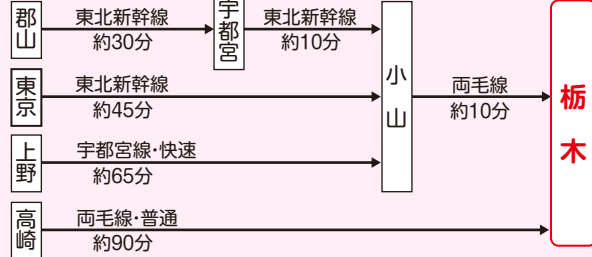


電車をご利用の方

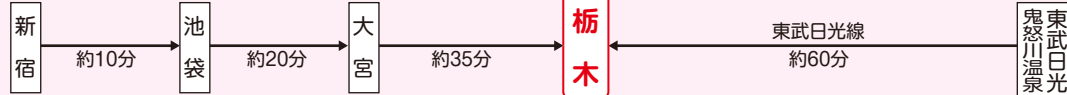
●東武鉄道 (特急スペーシア/きぬ・けごん) (浅草駅から約65分)



●JR東日本 (東京駅から約55分)



●JR・東武直通 (JR特急きぬがわ・日光・スペーシア) (新宿駅から約70分)



【お問い合わせ】

栃木市 住宅課 〒328-8686 栃木市万町9-25

☎ 0282-21-2453

FAX: 0282-21-2676

メールアドレス: jyutaku@city.tochigi.lg.jp

ホームページ: www.city.tochigi.lg.jp



栃木市章

ーデザインコンセプトー

緑色の4本のラインは「自然」、「歴史」、「地域」、「人」を表し、青色はこれらがひとつとなった大河の流れを、その先にあるオレンジ色の円は輝かしい未来と人々の情熱を表しています。いままでの歴史を受け継ぎ、明るい未来へと続くイメージを栃木市の「と」の文字をモチーフに表現しました。



栃木市マスコットキャラクター
とち介